

地域自立支援協議会（7/3開催）の意見

回答数	調査期間
6	2019年7月3日～7月31日

広報さむかわ11月号特集記事について

障がいによって掲載の仕方が違ってくると思うので、事前に内容を知りたい。

前回はどのような経緯で座談会になったのでしょうか。

（当事者の生の声を聴くとことができ、困難さが伝わってきた。）

知的障がいの場合は本人の声を聴くことは難しいことが多いので、やはり町内にある各事業所の紹介からでしょうか。仕事や活動内容とどのくらいの人達が働いているか等。

「どんな生活をしているの？」障害者の出生から成人までの生活を紹介する。特別な支援をこんなに受けているというイメージではなく、地域の中で、こんな身近で普通に生活していると感じてもらう。

児童期：誕生 → 保育所、幼稚園の頃 → 小・中学校の頃 → 高校の頃
 医療、保健所 発達支援センター 通常級、特別支援級、学校、インクルーシブ
 相談、告知

青年・成人期：①進学・就職・福祉サービス利用／②暮らしの場（在宅・自立・GH・施設）／余暇・趣味（ヘルパー、本人活動、ボラ）

車いす駐車場について

車いす駐車場についての意見

- ・車いす駐車場は車いすから乗り降りするため、車両の横に幅がいます。
- ・健常者の方、杖をついたお年寄り、車いす利用者でない障がい者の方が、平気で車を止められるのは疑問です。その人たちは、車のドアを開けるだけで降りられるでしょう。車いす利用者が、車いすを置く場所がないと降りられないと言うことが、どうして理解してもらえないのでしょうか。
- ・この間、強引なおばさんに杖をついたおじいさんが歩くのが大変だからと言われ、車を止められてしまいました。私は店（飲食店）の前で

車いすの移乗をし、別の空いている所に車を停めに行き、また帰りには、店の前に車をもってきて車いす移乗をして帰ってきました。同時に、入った場合車いすは優先されると思っていた私はびっくりしました。私も友達がいたので、車を移動させても子供を一人にしないですんだので、特に文句は言わなかったのですが、一人で連れて行ってたら、絶対に譲らなかったと、車いすの子を一人にはできないから、またはその店はやめて別の店に行ったでしょう。車いすだと言えば優先されると思っているのが間違いなのかと、でも杖をつけてよちよち歩きは大変なのは分かりますが、車いすは普通の駐車場の幅では乗降ができません。気持ちよく譲ってもらえる言い方、対応の仕方があれば教えて欲しいです。

町内の障がい福祉事業所の紹介

- ・職員の方、利用されている方の一言インタビュー。
- ・活動中の写真や製品の写真など掲載

11月図書館企画展示について

日中は高齢者（特に男性）の方が多くいたので、入り口付近に展示があると、普段目にする事のない人達の目に留まり効果的。展示は書物だけでしょうか。書物だけでなければ ・真面目過ぎず重苦しくない ・明るくポップな感じに ・楽しく生きていますアピール

- ・困りごと
- ・ニコリマーケットの時のような各団体の紹介
- ・ニコリマーケットのお知らせ

まだ2回目なので前回同様で良いのでは。アンケートにあった要望は可能な限り応える。

パンフレット、自主製品、自主作品。

障がい者に配慮した避難所掲示物・防災関連資料の展示

一例として、

- ・昨年一之宮小学校で作成した掲示物
- ・コミュニケーション支援ボード
(以下、ダウンロードできます)
明治安田こころの健康財団コミュニケーション支援ボード
荒川区のコミュニケーション支援ボード
- ・日本自閉症協会防災ハンドブック 支援者用・当事者用
(ダウンロードできます) など

当事者の座談会など昨年の広報に載せたものなどを、音声を絞れば流せる場所があれば、流してもよいかもしれません。

絵本読み聞かせ(手話付き 付けてほしい)

のぼり旗について

デザインがきになるので原案をみたい。各団体の名称を入れる？各事業所で保管？

どのような標語になるかだと思ふ。

ゴミ拾い、地域活動の時に使用。

- ・ 役場入り口に常設。
- ・ 障害者週間の期間、JRの各駅入口、役場・体育館・公共施設入口に立てる。
- ・ 「寒川ふれあい福祉フェスティバル」開催中、会場に立てる。

それぞれの団体に文章を作って置く？ 「聴覚 理解して、協力してもらえばありがたい」

まとめて文章を作って置くか？

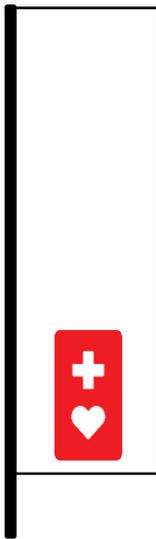
↑情報不足なので

○のぼり旗の標語・デザインの案について

標語の案

1. 少しでも、勇気を出して声かけて ～知って感じて、こころのバリアフリー～
2. 声かけから始まる、バリアフリーの輪
3. 他人ごと^{ヒト}じゃなく自分ごと
4. 支えあい
5. 私たちのこと、知ってください！
6. ありがとう あなたの思いやり
7. ひとつの声掛けで 助かる気持ち
8. 思いやりを感じるまち さむかわ

デザイン（案）



ヘルプマークとは

（東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課が発行しているヘルプマーク作成・活用ガイドラインより抜粋）

- ・ 主 旨：義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方がいます。そうした方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなるよう作成したマークです。また、多様な主体による活用を図り、援助が必要な方が日常的に様々な援助が得られる社会づくりを推進するものです。
- ・ 対象者：義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としている方